【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成23年7月7日(2011.7.7)

【公開番号】特開2011-37277(P2011-37277A)
【公開日】平成23年2月24日(2011.2.24)
【年通号数】公開・登録公報2011-008
【出願番号】特願2010-226212(P2010-226212)
【国際特許分類】
Ｂ３１Ｄ　5/02　(2006.01)
Ｂ３１Ｂ　49/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ３１Ｄ　5/02
Ｂ３１Ｂ　49/00　Ｐ

【手続補正書】
【提出日】平成23年5月18日(2011.5.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
植物性繊維材料の１種若しくは２種以上から所定の大きさの厚紙状物に形成する工程と、該厚紙状物にヒートシール能を有する熱可塑性樹脂をコーティングする工程と、該厚紙状物の四隅に側面片を形成する切断部を形成する工程と、このようにして得た厚紙状物を凹凸一対のプレス金型で加熱プレスして弁当箱の蓋を形成する工程とを具備し、前記一方の対向する側面片は、他方の対向する側面片よりも先に起立するようにして凹金型上に載置し、この状態で凸金型で押圧加熱プレスして、側面片同士が貼着し、前記四隅のコーナーは、丸みを帯びるように形成したことを特徴とする弁当箱の蓋の製造方法。
【請求項２】
前記切断部を漏斗状若しくは略Ｙ字形に形成する請求項１記載の製造方法。
【請求項３】
前記ヒートシール能を有する熱可塑性樹脂を前記厚紙状物の片面にコーティングする請求項１又は２記載の製造方法。
【請求項４】
前記切断部は、先端角部若しくは切断線が、形成する弁当箱の蓋底面のコーナーに達するように形成されている請求項１～３のいずれかに記載の製造方法。
【請求項５】
前記切断部を２０°～６０°の角度のＶ字形に形成する請求項４記載の製造方法。
【請求項６】
前記凹金型の凹部周縁の一方の対向部に、凸状部を形成して、前記厚紙状物の一方の対向する該凸状部上の側面片は、他方の対向する側面片よりも先に起立するように構成する請求項１～５のいずれかに記載の製造方法。
【請求項７】
前記パルプ及びパルプ以外の植物性繊維材料の１種若しくは２種以上は、パルプとパルプ以外の植物性繊維材料との混合物である請求項１～６のいずれかに記載の製造方法。
【請求項８】
前記ヒートシール能を有する熱可塑性樹脂が、ポリエチレン又はポリプロピレンである請

求項１～７のいずれかに記載の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
　また請求項７に記載の発明は、地球環境の問題をも考慮し、安価で且つパルプ使用量を減少させた植物性繊維材料製弁当箱の蓋の製造方法を提供することを目的とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記目的に沿う本発明の構成は、植物性繊維材料の１種若しくは２種以上から所定の大きさの厚紙状物に形成する工程と、該厚紙状物にヒートシール能を有する熱可塑性樹脂をコーティングする工程と、該厚紙状物の四隅に側面片を形成する切断部を形成する工程と、このようにして得た厚紙状物を凹凸一対のプレス金型で加熱プレスして弁当箱の蓋を形成する工程とを具備し、前記一方の対向する側面片は、他方の対向する側面片よりも先に起立するようにして凹金型上に載置し、この状態で凸金型で押圧加熱プレスして、側面片同士が貼着し、前記四隅のコーナーは、丸みを帯びるように形成したことを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
前記切断部を漏斗状若しくは略Ｙ字形に形成することによって、コーナー内面からの水漏れを効果的に防止し得る（請求項２）。
前記ヒートシール能を有する熱可塑性樹脂を前記厚紙状物の片面（表裏の一方）にコーティングするのが、コスト的にプラスチックに代替し得るということと、印刷可能ということから特に好ましい（請求項３）。現実に、両面にコーティングすると、現在の技術ではコスト高になりプラスチックに代替し得ない。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
前記プレスする前に、一方の対向する側面片を折曲して、前記一方の対向する側面片は、他方の対向する側面片よりも先に起立するように構成すれば、通常の金型を使用しても製造することが出来る。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
前記パルプ及びパルプ以外の植物性繊維材料の１種若しくは２種以上は、パルプとパルプ

以外の植物性繊維材料との混合物とするのが、森林伐採による地球環境の破壊防止の見地から好ましい（請求項７）。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
本発明に使用するヒートシール能を有する熱可塑性樹脂としては、ポリエチレン又はポリプロピレンとするのが好ましい（請求項８）。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
また請求項７に記載の発明によれば、安価で且つパルプ使用量を減少させた植物性繊維材料からなる弁当箱の蓋が得られるので、森林伐採による地球環境の破壊防止に寄与することが出来る。